石内尋常高等小學校 花は散れども

2008(平成20)年7月23日鑑賞(GAGA 試写室)



監督・脚本・原作=新藤兼人/出演=柄本明/豊川悦司/六平直政/川上麻衣子/大竹しのぶ(シネカノン配給/2008年日本映画/118分)

……今ドキこんな映画をつくり世に問えるのは、96歳の現役監督新藤兼人くらい。テーマは恩師と生徒との絆だが、もう1つ監督自身の若き日の恋模様も……。教育の崩壊が進み、ケッタイな犯罪が急増している今、せめてこんな映画で熱い心を燃やしてほしいものだ。もし、若者のあなたが「晴耕雨読」を知らないとしたら、必ず国語辞典を!

100歳を前に、選んだテーマは?

日経新聞で2007年5月1日~31日に連載された新藤兼人監督の「私の履歴書」を私は毎日興味深く読んでいた。彼が生まれたのは1912年4月22日だから、2008年7月の今、彼は96歳。プレスシートによれば、この映画の企画は2004年頃から動きはじめたそうだが、撮影は2007年9月1日~10月31日までの2カ月。つまり、新藤兼人監督は自らの原作・脚本を持ち、95歳の現役監督として現場を指揮したのだからすごい。100歳を目前に彼が選んだテーマは、自らの小学生時代の体験を基にした恩師の思い出。彼の小学生時代といえば、1920年代はじめだから大正時代。その時代の小学校の先生は、さぞ厳しかったことだろう。

先生と生徒の絆をテーマとした小説の代表は壺井栄の『二十四の瞳』だが、これは太平洋戦争前後の小豆島の小学校での女先生と生徒たちの絆を描いたもの。さて、それよりずっと古い大正時代終わりの、広島市から山1つ奥にあった石内尋常高等小学校の教師と生徒たちの絆は……?

筆実は、もう1つのテーマも……

プレスシートの冒頭にある新藤兼人の「創作ノート」には、少年の心に残った先生

の「人格」への思いが熱っぽく語られているが、実はこの映画にはもう1つ大きなテーマがある。それは、小学校を卒業した30年後の今、東京で売れない脚本家として生活している山崎良人(豊川悦司)と、今は地元の料亭の女将となっている藤川みどり(大竹しのぶ)との甘く切ない恋。小学校時代、良人は級長だったが、市川義夫先生(柄本明)の見立てでは、「お前は賢いが胆力に欠ける。粘りに欠ける」というものだった。また、みどりの良人に対する評価も、「グズで決断力に欠ける」というもの。新藤兼人監督の公私共のパートナーは乙羽信子だが、そんな彼の若かりし頃の同級生との恋が赤裸々に描かれる(?)から、要注目! それにしても、30年ぶりに開かれた恩師を囲む謝恩会の夜、はじめて結ばれるとは何ともロマンティック。今は天国にいる乙羽信子は怒っているかもしれないが、もちろん既に時効……?

■■冒頭で涙が……

6月8日の秋葉原無差別殺傷事件、7月19日の中学3年生の女の子による父親殺害事件と、日本国の惨状は目を覆うばかりだが、その原因の大半は教育の崩壊。モンスターペアレンツなどという恐ろしい言葉が現実になっているのだから、ひと昔、ふた昔前に存在していた「金八先生」が絶滅危惧種になっているのは仕方ない。しかし大正の終わり、石内尋常高等小学校で教鞭をとる市川先生の映画冒頭における熱血教師ぶりを見せられると、それだけで思わず涙が……。

「そんなバカでかい声を出さなくても……」と思わないでもないが、今市川先生が 三吉に大声で怒り、バケツ持ちの罰を科したのは、授業中に三吉がいびきをかいて居 眠りしていたため。しかし、意外にあの時代の教室は民主的で、さすが「大正デモク ラシー」と呼ばれただけのことがある。つまり、市川先生は生徒たちに対して、自分 が三吉に対してとった処置の是非を問うわけだ。もちろん、生徒たちの意見はそれに 賛成。また、三吉自身もそれを了解。これにて一件落着となったわけだが、面白いの はその番外編。

すなわち、「ところで……」として、「三吉は昨夜何をしていたのか?」と聞き、それに対して、三吉が「一晩中、田植えの手伝いをしていた」とその様子を詳細に答えると、市川先生は態度を一変。「ワシが悪かった。それを知らなかったから、まちがった罰を科した。許してくれ。机に戻れ。そして、いくらでも居眠りをしろ」と涙を流しながら謝る姿に、思わず私も涙……。

20年間の熱い思いが口々に……

あの「居眠りの三吉」が今は村の収入役(六平直政)。そんな三吉から今、東京で 売れない脚本家をしている良人にかかってきたのは、30年ぶりに市川先生の謝恩会と 同窓会をやるから参加してくれとの電話。会場はみどりが女将をしている地元の料亭 だ。30年前の美人先生道子(川上麻衣子)と一緒に出席した市川先生の謝恩会に集ま った6年1組の同窓生は16名。卒業した32名中16名が死亡したわけだから、やはり激 動の時代を感じさせる。今風の謝恩会・同窓会では、形式的なあいさつの後たちまち パーティー開始だが、この謝恩会がいいのは、1人1人30年の思いを語るスピーチ時 間をとったこと。もちろん、30年の思いを2、3分に要約してしゃべるのは難しいが、 そこは95歳のベテラン監督が仕切っているから見事な構成に。夫を戦争で失い、その 弟に再度嫁いだところ2度目の夫も戦争で失った人や、ピカドンの被害をモロに受け て苦しむ人たちの30年の思いは重い。また、想う人を15年間も待ったのに、その人は 手紙の1本もくれなかったこと、その結果今は料亭の女将に収まっていると告白する みどりの目が見据える先は……? 最後に立った良人は、地元に残った人たちそれぞ れの30年の思いに圧倒され、丙種合格しかできなかった自分の「戦争体験」をわずか に語るばかり。そして、良人はしがない脚本家として日々を過ごしている自身のふが いなさを痛感させられるばかりだったが……。

校歌と「晴耕雨読」について

この映画には、新藤兼人作詞、林光作曲の『石内尋常高等小学校校歌』をフルコーラスで歌うシーンが数回登場する。今ドキ、校歌を聞くのは甲子園の高校野球、国歌を聞くのはオリンピックくらいしかないが、95歳の新藤兼人監督の思いを込めたその歌詞をしっかり味わいたい。他方、多少時代がかった物言いをする傾向のある市川先生の口から再三出てくるのが「晴耕雨読」という言葉。定年を迎えた市川先生がはじめて購入したマイホームは石内尋常高等小学校のすぐ前だが、それはなぜ……?「晴耕雨読」とは、「晴れた日には田畑を耕し、雨の日には家にこもって読書をすること」、つまり悠々自適の生活を送るという意味の言葉だが、私がふと不安に思ったのは、この言葉を今ドキの若者たちは知ってるのだろうかということ。新藤兼人監督は、日本人(の成年)なら誰でも知っていると思っているはずだが、教育レベルが低下し



© 2008 年「石内尋常高等小学校 花は散れども| 製作委員会

た昨今、その認識はかなり甘いのでは……?

==さらに 5 年後……

時は移り、それからさらに5年後。三吉は村長になっていたが、脳卒中で倒れた市川先生は病床に。直近の大ニュースは、大阪で女をつくり、中華料理の修業をしていたというみどりの夫がヤクザに刺されて死亡したこと。みどりには同窓会の直後に生まれた良子という5歳の女の子がいたが、夫の死亡を聞いた良人はある告白をするべく故郷に戻り、みどりと再会することに。新藤兼人監督自身を題材としているだけに、グズで決断力に欠ける良人と、肝がすわり決断力のあるみどりとの対比が面白い。とりわけ、大竹しのぶの芸達者ぶりが際立っているから、同窓会の夜の海辺への散歩中に起きた「ハプニング」や、良人からのプロポーズに対する「拒否」の回答シーンが印象的。描き方によってはかなりヤバくなりそうなストーリーを、ユーモアを交えたエピソードとしてまとめあげた新藤兼人監督の手腕はさすが。

市川先生と教え子たちの絆を中心にした感動の物語とともに、こんな危なっかしい 恋模様の展開(?)も十分味わい、楽しみたいものだ。

2008(平成20)年7月24日記

表紙撮影の舞台裏(8) その2

- 1) 今回の表紙撮影の実行日は08年11 月1日(土)。出版予定日まで時間的 にギリギリ、またプロのカメラマンで ある中野克彦氏との日程調整もギリギ リの中でこの日に決めたのに、2日前 の予報は雨。「こりゃまずい! | と思 っていたら、その予報は見事に外れ、 当日は朝から快晴の撮影日和となった。 「晴れ男」が自慢の私の神诵力はすご いものだ。
- 2)20冊目で還暦の記念号となる『シ ネマ20 は、レッドカーペット上をタ キシード姿で歩く晴れ姿を! それが 出版社側の希望だったが、照れ屋の私 は迷った挙げ句タキシード姿は断念。 だって、あれは脚が長く筋肉隆々とし たジェームズ・ボンドのような男が着 れば絵になるが、短足で胸板も厚くな い私では? さらに、最近結婚式でよ く見る新郎の白のタキシード姿も、時 として猿回しの猿のような感じも? その結果、当日は胸ポケットにチーフ を飾った紺スーツ姿での撮影となった。 もっとも、レッドカーペット上を歩く 姿という構想は裏表紙に使えるため、 それらしきカーペットを持参して撮影 を開始することに(撮影風景は192頁)。 3) 10冊目の『シネマ10』は、映画検 定4級の合格証を左手に持ち、右手を 突き上げる勇姿を真ん中に、『シネマ』

1~9の各表紙が三方を飾ったが、今 回は『シネマ』11~19の各表紙を花束 風に見立てる構想。そのため今回の私 は左の手の平の上にそれらを載せて、 満面の笑顔で明るい太陽光線と真正面 から向かい合うことに。そのバックは、 去る08年10月19日の京阪電車の中之島 線開通 (延線) によって一層有名にな った大阪の中之島公会堂。これまで何 度も挑戦しながら実現できなかった企 画だけに、期待感で胸ワクワクだ。

4) 人物とバックとのバランスをどう 撮るかはすごく難しいが、さすがプロ のカメラマン。最近よく表紙撮影を担 当している当事務所の事務局次長金子 友次朗の撮影技術の上達ぶりは著しい。 しかし、やはり彼ではとても無理と思 われるライティングと構図の妙そして 絞りとシャッター速度を自在に操る撮 影技術によって、見事な表紙写真候補 が次々と完成していった。『シネマ』 11~19の表紙に活用していた旅行先で のスナップ写真や金子撮影の素人写真 とは明らかにレベルが異なるプロカメ ラマンの撮影技術に是非注目してほし い。ちなみに、今回はタキシード姿を 断念したが、『シネマ30』完成の暁に は是非挑戦してみるつもりなので、そ れもお楽しみに。

2008 (平成20) 年11月1日記